

トルコ ザクロの収穫が始まる

[FreshPlaza 2024年10月15日](#)

トルコのザクロの収穫が始まり、今年は天候がよい影響を与えていると、トルコの青果物貿易業者トゥメン・タルム社の輸出マネージャーであるケレム・トゥメン氏は述べている(以下「」は同氏の話)。「トルコではヒジャーズ(Hicaz)品種のザクロの収穫が始まった。気象条件は引き続き非常に良好で、大雨やその他の悪天候の影響に対処する必要はなかった。これは品質への影響がないことを意味しており、弊社の果樹園のザクロには裂果が見られない。ただし、暑い天候のため、昨年と比べてザクロが小玉化している。」

トゥメン氏によると、出荷量は昨年と同程度になるはずである。昨年は着果数をもっと多かったが、損失も多かった。「今年の生産量を見ると、昨年とほぼ同じだと言えるだろう。前のシーズンには樹上の着果量は本当に多かったが、雨で多くの裂果が発生しかなりの損失が出た。今年は天気が良く、大きな損失を出さないと見られ、大変ありがたい。」

ヒジャーズザクロはトルコの品種として人気を集めているが、トルコ産ザクロ全体の需要も高まっている。「ヒジャーズザクロはトルコで栽培される特有の品種で、甘い味が大変よい。ヒジャーズ品種の市場シェアが年々増えるにしたがって、この味の良さで品種の認知度が高まった。そのため、このザクロの需要はここ数年よりも少し高いようだ。今はまだシーズンの始まりに過ぎないため、市場の動向を見守る必要がある。2025年3月中旬まで出荷を続けることができると見込んでいる。」

執筆者: ニック・ピーターズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

ニュージーランド キウイ生産者はゼスプリの世界拡大計画を支持

[FreshPlaza 2024年10月15日](#)

ニュージーランド・キウイフルーツ生産者協会(NZKGI)は、2022年には海外での生産拡大に関して中立的な立場であったが、現在は海外でのキウイフルーツの収穫量を増やすというゼスプリの取り組みを支持している。2022年の提案は、国内のシーズンオフに供給する海外の栽培面積を拡大しようとするものであったが、賛成は約70%に留まり、可決に必要な75%の生産者の支持を得ることができなかった。

NZKGIのコリン・ボンドCEOは、この問題についてアドバイスを求める生産者が増えていると強調し、その重要性に対する認識が高まっているとして、「この問題が現在どれほど重要であるかについての理解が高まっており、そのメッセージはゼスプリからも出されていて、我々はゼスプリの草案を支持している」と述べた。この提案では、イタリア、フランス、日本、韓国、ギリシャでのサンゴールドキウイフルーツの栽培に、6年間にわたって毎年最大420ヘクタールを割り当て、ゼスプリの取締役会が毎年レビューを行い、需要が供給を上回っていることを確認する。

ゼスプリは、オフシーズンの棚のスペースを維持することが課題となっているが、その時期のサンゴールドの供給量の80%以上はイタリアから出荷されている。今シーズンの供給量は、需要の約70%を満たしている。ボンド氏は最近ヨーロッパを訪問したことで、他の複数の業者が供給ギャップを埋める用意があるという競争上の脅威に注目し、ゼスプリの拡大を支持することの緊急性を確信した。同氏はまた、ギリシャのキウイフルーツ生産者の可能性や、イタリアの生産者が直面しているつる枯れ病の問題についても言及した。

この提案はまだ草案段階であり、ゼスプリの取締役会による承認が必要であり、年末までに生産者の投票が行われると見られる。ゼスプリは、すでに北半球で5千ヘクタールのサンゴールドキウイフルーツを栽培する承認を得ており、小売業者に様々なキウイフルーツを売り込むイタリアの業者との競争に直面している。

出典: [farmersweekly](#)